



平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月8日

上場取引所 東名

上場会社名 大東紡織株式会社

コード番号 3202 URL <http://www.daitobo.co.jp/>

代表者 (役職名) 取締役社長

(氏名) 国広 伸夫

問合せ先責任者 (役職名) 経営管理本部経営企画部長

(氏名) 三枝 章吾

TEL 03-3665-7843

四半期報告書提出予定日 平成25年11月8日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	3,481	△6.7	62	△29.9	△105	—	△107	—
25年3月期第2四半期	3,730	1.1	88	△16.8	△80	—	△95	—

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 16百万円 (—%) 25年3月期第2四半期 △95百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	△3.58	—
25年3月期第2四半期	△3.18	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第2四半期	21,703	4,806	19.8
25年3月期	22,054	4,790	19.6

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 4,292百万円 25年3月期 4,327百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,100	△1.0	500	33.9	160	200.0	120	678.7	4.01

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期2Q	30,000,000 株	25年3月期	30,000,000 株
② 期末自己株式数	26年3月期2Q	65,612 株	25年3月期	65,362 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期2Q	29,934,459 株	25年3月期2Q	29,935,857 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続きは終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいたものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、公共投資の増加や輸出の持ち直しの動きに加え、雇用・所得環境に一部改善の動きがあることを背景に個人消費が引き続き底堅く推移したことなどから、緩やかな回復を続けております。ただし、輸入企業にとっては円安分の価格転嫁の成否に業績が影響を受ける環境が続いており、また、欧米経済の不確実性も景気下押しリスクとして残る環境でありました。

繊維・アパレル業界におきましては、景気持ち直しの動きに加え、特に8月が記録的な猛暑となったことで夏物商材が比較的好調であったため、9月に台風等天候の悪影響はあったものの、総じて順調に推移しました。また、ラグジュアリーブランドなどの高額品を始め、メンズ衣料・レディース衣料とも全般に回復傾向を示す動きとなりました。ただし、秋物のスタートは猛暑の長期化と台風の影響を受け出遅れる結果となりました。

ショッピングセンター業界におきましては、天候不順の影響と夏物のセール前倒し実施の反動減などが悪化要因となり、夏物前倒しセールを行った6月と猛暑の8月は前年比プラスとなったものの、全体としては前年を上回ることが出来ない結果となりました。

このような状況の中で、当社グループは当期(第194期)から「中期経営計画 Beyond 120th~120周年をを超えて未来へ」をスタートさせ、収益力増強のための「成長戦略」と繊維事業の安定的黒字を確保するための「安定化戦略」への取り組みを進めております。

繊維・アパレル事業につきましては、「成長戦略」に基づく強化事業への取り組み強化を進めましたが、基盤事業のうち生産管理型OEM事業の受注減と採算の低下しているメンズスーツ事業のスリム化を主因に、売上高・営業利益とも前年同期を下回る結果となりました。不動産事業につきましては、「成長戦略」の主力事業育成方針の下、静岡県下有数の商業施設である「サントムーン柿田川」においてテレビCM実施、一部店舗のリニューアルおよび季節毎のイベント実施など引き続き集客力向上に努めたことなどが奏功し、売上高・営業利益とも前年同期を上回りました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高34億81百万円(前年同期比6.7%減)と減収となったものの、販売管理費の削減効果もあり営業利益62百万円(前年同期比29.9%減)と前年同期に続き営業黒字を確保し、これに支払利息負担などを加減した結果、経常損失1億5百万円(前年同期は経常損失80百万円)となりました。さらに、法人税、住民税及び事業税等を加減した結果、四半期純損失は1億7百万円(前年同期は四半期純損失95百万円)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(繊維・アパレル事業)

衣料部門につきましては、メンズ衣料は採算の低下しているメンズスーツ事業のスリム化を主因に売上高が前年同期を下回りました。レディース衣料は円安に伴う輸入品の価格競争激化により生産管理型OEM事業を始め一部大口先で受注を落としたことなどの結果、売上高は前年同期を下回りました。

ユニフォーム部門につきましては、官需・民需とも落札実績が昨年を下回った結果、売上高が前年同期を下回りました。

寝装品部門につきましては、当社独自素材であるEウールを活用した寝装品など健康医療関連商材が好調に推移した結果、売上高は前年同期を大きく上回りました。

この結果、繊維・アパレル事業の売上高は22億73百万円(前年同期比10.5%減)、営業損失は1億83百万円(前年同期は営業損失1億35百万円)となりました。

(不動産事業)

不動産事業につきましては、静岡県下有数の商業施設である「サントムーン柿田川」の順調な集客力を背景に、売上高は前年同期を上回りました。

この結果、不動産事業の売上高は12億7百万円(前年同期比1.6%増)となり、さらに減価償却費の減少もあり営業利益は4億53百万円(前年同期比8.2%増)となりました。

- (注) 1. 上記のセグメントの業績に記載している営業利益は、セグメント間の内部取引を含んだ金額を記載しております。
2. 当社の消費税等に係る会計処理は、税抜方式によっているため、記載した金額には消費税等は含まれておりません。
3. 記載している見通し等将来についての事項は、本資料の発表日現在において判断したものであり、予測しえない経済環境の変化等様々な要因があるため、その結果について当社グループが保証するものではありません。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債、純資産等の状況に関する分析)

① 資産

当第2四半期連結会計期間末における総資産の残高は217億3百万円(前期末は220億54百万円)となり、前期末に比べ3億51百万円減少(前期末比1.6%減)しました。主な要因は、現金及び預金の減少2億15百万円、受取手形及び売掛金の減少4億円、預け金(流動資産のその他)の増加3億21百万円であります。

② 負債

当第2四半期連結会計期間末における負債の残高は168億96百万円(前期末は172億64百万円)となり、前期末に比べ3億67百万円減少(前期末比2.1%減)しました。主な要因は、支払手形及び買掛金の減少4億2百万円、短期借入金の減少11億91百万円、長期借入金の増加12億74百万円であります。

③ 純資産

当第2四半期連結会計期間末における少数株主持分を含めた純資産の残高は48億6百万円(前期末は47億90百万円)となり、前期末に比べ16百万円増加(前期末比0.3%増)しました。主な要因は、利益剰余金の減少1億7百万円、為替換算調整勘定の増加69百万円、少数株主持分の増加51百万円であります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、営業活動によるキャッシュ・フローで2億24百万円のマイナス(前年同期は2億31百万円のマイナス)、投資活動によるキャッシュ・フローで3億44百万円のマイナス(前年同期は9百万円のマイナス)、財務活動によるキャッシュ・フローで6億89百万円のプラス(前年同期は54百万円のプラス)となりました。

これらの各活動に加え、為替相場の変動による現金及び現金同等物に係る換算差額63百万円のプラスを反映した結果、当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は12億77百万円(前年同期比69.7%増)となり、前期末に比べ1億84百万円増加しました。

当第2四半期における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

① 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、2億24百万円のマイナス(前年同期は2億31百万円のマイナス)となりました。これは主に、売上債権の減少4億25百万円、たな卸資産の増加60百万円、仕入債務の減少4億30百万円、預り保証金の減少1億20百万円によるものであります。

② 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、3億44百万円のマイナス(前年同期は9百万円のマイナス)となりました。これは主に、預け金の預入による支出3億21百万円によるものであります。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、6億89百万円のプラス(前年同期は54百万円のプラス)となりました。これは主に、担保提供預金の減少額4億円、長期借入れによる収入22億70百万円、長期借入金の返済による支出21億86百万円、社債の発行による収入2億50百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成25年5月14日発表の予想数値に変更はありません。なお、業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいたものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、平成22年3月期(第190期)において、紳士服販売子会社の不振が損益面に強く影響を与えたことなどにより、連続して営業損失および当期純損失を計上するとともに、「サントムーン柿田川」の第2期開発および第3期開発資金や紳士服販売子会社の赤字運転資金などの負担から、有利子負債額が高水準となっておりました。当該状況の改善につきましては、相当程度進めているものの、その解消には至っておらず、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

この状況に対処すべく、当社グループは、平成23年3月期(第191期)から平成25年3月期(第193期)までの3年間にわたり「中期経営計画2010～KAIKAKU～」に基づく諸施策への取り組みを進め、計画の柱である「事業構造の改革」と「コスト構造の改革」をほぼ計画通りに達成しました。また、損益面では2期連続で当期純利益を確保するとともに、財務面では「有利子負債の圧縮」について計画を上回る圧縮を行うなど、損益面・財務面での改善を行いました。

さらに、当期(第194期)からは、新たに「中期経営計画 Beyond 120th～120周年を超えて未来へ～」をスタートさせ、従来の構造改革路線から成長路線へ踏み出すことを基本的な考え方とし、特に最終年度の平成28年3月期(第196期)には当社創立120周年の節目を迎えることを機に、当社グループの永続的発展の基盤作りに取り組む方針としております。

具体的には、収益力増強のための「成長戦略」の一つとして、不動産事業を「主力事業」に育成する方針の下、静岡県下有数の商業施設である「サントムーン柿田川」の運営で培ったノウハウを活かし、商業施設におけるプロパティマネジメント業務の新たな展開への取り組みを進めております。また、もうひとつの「成長戦略」として、当社グループ事業から選択した「強化事業」への取組強化を進める方針の下、従来から注力している提案型OEM事業の中から素材・デザイン提案型OEM事業とニット企画提案型OEM事業の2つの事業と、さらに当社が販売基盤を持ち、かつ市場の拡大が見込まれる健康医療関連事業および中国関連事業の2つの事業の計4事業を選択し、その取り組みに注力しております。

また、繊維事業の安定的黒字を確保するための「安定化戦略」として、ユニフォーム事業、生産管理型OEM事業および一般寝装品事業の3つの事業を「基盤事業」に位置付け、安定的な受注により確実に収益を確保するとともに、採算の低下しているメンズスーツ事業については「スリム化事業」に位置付け一段のスリム化を進め業績を安定化させるとの方針のもと、それらへの取り組みを進めております。

当第2四半期連結累計期間における経営成績につきましては、上記「1.(1)経営成績に関する説明」に記載のとおり、売上高は寝装品部門が好調であったものの、円安に伴う輸入品の価格競争激化により生産管理型OEM事業を始めとするレディース衣料で受注を落としたことによる減収と採算の低下しているメンズスーツ事業のスリム化に伴う減収を主因に前年同期を下回りました。その結果、減価償却費の減少や販売管理費の削減で粗利益の減少をカバーするに至らず営業損益面でも前年水準を下回ることとなりました。ただし、計画対比では売上減少を織り込んでいたこともあり営業利益水準は概ね計画通りの結果となりました。また、有利子負債額は100億8百万円と季節性を背景に前期末比2億85百万円増加したものの、前年同期末と比べれば3億29百万円減少しており、有利子負債の圧縮についても概ね計画通りに進捗しております。

当社グループといたしましては、当第2四半期におきましても中期経営計画に基づく諸施策を着実に推進しており、平成26年3月期通期では損益面・財務面ともに計画通り実現し、連結当期純損益の黒字化はもとより、「繊維事業部門の連結営業損益黒字化」を達成するとともに、引き続き余剰営業資金により「有利子負債の圧縮」を図る計画としており、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位: 千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,583,368	1,367,703
受取手形及び売掛金	1,467,518	1,067,314
たな卸資産	674,889	748,375
その他	63,023	402,850
貸倒引当金	△10,590	△9,410
流動資産合計	3,778,208	3,576,833
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,698,586	7,550,729
土地	9,343,548	9,343,548
その他(純額)	410,674	405,519
有形固定資産合計	17,452,809	17,299,798
無形固定資産		
	78,898	89,472
投資その他の資産		
投資有価証券	345,012	349,189
破産更生債権等	127,546	127,526
その他	396,120	384,461
貸倒引当金	△124,245	△124,225
投資その他の資産合計	744,432	736,951
固定資産合計	18,276,141	18,126,221
資産合計	22,054,350	21,703,055

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,177,674	774,882
短期借入金	3,490,848	2,299,504
1年内償還予定の社債	—	100,000
未払法人税等	35,537	27,838
返品調整引当金	146,318	117,794
賞与引当金	31,981	29,252
その他	799,670	656,121
流動負債合計	5,682,030	4,005,393
固定負債		
社債	300,000	450,000
長期借入金	5,040,672	6,315,228
長期預り保証金	3,167,604	3,050,283
繰延税金負債	16,937	17,901
再評価に係る繰延税金負債	2,575,733	2,575,733
退職給付引当金	183,986	193,751
資産除去債務	55,571	56,009
その他	241,644	232,301
固定負債合計	11,582,149	12,891,209
負債合計	17,264,179	16,896,602
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,500,000	1,500,000
資本剰余金	503,375	503,375
利益剰余金	△2,321,156	△2,428,392
自己株式	△6,971	△6,989
株主資本合計	△324,752	△432,006
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	20,345	22,641
繰延ヘッジ損益	67	△153
土地再評価差額金	4,628,550	4,628,550
為替換算調整勘定	3,507	73,487
その他の包括利益累計額合計	4,652,470	4,724,525
少数株主持分	462,451	513,933
純資産合計	4,790,170	4,806,453
負債純資産合計	22,054,350	21,703,055

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第 2 四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 9 月30日)
売上高	3,730,507	3,481,490
売上原価	2,825,679	2,651,393
売上総利益	904,828	830,097
販売費及び一般管理費	815,974	767,811
営業利益	88,853	62,286
営業外収益		
受取利息	677	491
受取配当金	2,465	2,663
その他	6,791	3,372
営業外収益合計	9,935	6,527
営業外費用		
支払利息	160,791	150,066
その他	18,417	23,816
営業外費用合計	179,209	173,883
経常損失(△)	△80,420	△105,069
税金等調整前四半期純損失(△)	△80,420	△105,069
法人税、住民税及び事業税	23,026	23,106
法人税等調整額	△247	△269
法人税等合計	22,778	22,836
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△103,199	△127,905
少数株主損失(△)	△7,908	△20,669
四半期純損失(△)	△95,291	△107,236

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△103,199	△127,905
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△7,327	2,296
繰延ヘッジ損益	△902	△221
為替換算調整勘定	15,912	142,131
その他の包括利益合計	7,682	144,206
四半期包括利益	△95,516	16,300
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△95,680	△35,181
少数株主に係る四半期包括利益	163	51,481

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△80,420	△105,069
減価償却費	275,574	239,716
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△730	△1,200
返品調整引当金の増減額(△は減少)	△22,747	△28,524
賞与引当金の増減額(△は減少)	2,312	△2,729
退職給付引当金の増減額(△は減少)	21,677	9,765
受取利息及び受取配当金	△3,143	△3,155
支払利息	160,791	150,066
売上債権の増減額(△は増加)	165,383	425,314
たな卸資産の増減額(△は増加)	△123,193	△60,373
仕入債務の増減額(△は減少)	△269,127	△430,334
預り保証金の増減額(△は減少)	△80,851	△120,320
その他	△97,619	△115,955
小計	△52,093	△42,798
利息及び配当金の受取額	3,133	3,144
利息の支払額	△164,191	△151,290
法人税等の支払額	△18,753	△33,359
営業活動によるキャッシュ・フロー	△231,905	△224,303
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形及び無形固定資産の取得による支出	△7,974	△23,062
資産除去債務の履行による支出	△794	—
投資有価証券の取得による支出	△598	△598
預け金の預入による支出	—	△321,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,368	△344,661
財務活動によるキャッシュ・フロー		
担保提供預金の減少額	—	400,000
短期借入金の純増減額(△は減少)	500,000	—
長期借入れによる収入	500,000	2,270,000
長期借入金の返済による支出	△903,458	△2,186,788
社債の発行による収入	—	250,000
リース債務の返済による支出	△41,844	△43,464
自己株式の増減額(△は増加)	△20	△18
財務活動によるキャッシュ・フロー	54,677	689,729
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,795	63,570
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△184,800	184,335
現金及び現金同等物の期首残高	937,711	1,093,231
現金及び現金同等物の四半期末残高	752,910	1,277,566

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I. 前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	繊維・アパレル 事業	不動産事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,541,575	1,188,932	3,730,507	—	3,730,507
セグメント間の内部売上高 又は振替高	54	607	662	△662	—
計	2,541,630	1,189,539	3,731,170	△662	3,730,507
セグメント利益又は損失(△)	△135,851	419,354	283,502	△194,649	88,853

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△194,649千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II. 当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	繊維・アパレル 事業	不動産事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,273,984	1,207,506	3,481,490	—	3,481,490
セグメント間の内部売上高 又は振替高	120	481	602	△602	—
計	2,274,105	1,207,988	3,482,093	△602	3,481,490
セグメント利益又は損失(△)	△183,882	453,873	269,991	△207,705	62,286

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△207,705千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。